

道東のタライカヤナギ(ヤナギ科)の分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

タライカヤナギ *Salix taraikensis* (図1) は佐藤(2017)によると道東の湿原の周辺や山地の、日当たりのよい所に生える落葉樹、幹は叢生し、高さ5m。分布は北海道(東部)、サハリンとあるが詳細な産地記載はない。そこで、国内では道東にしか見られないとされながら、これまであまり紹介されたことがなかったタライカヤナギの分

釧路、根室、網走の4支庁である。

滝田(2001)は標茶町五十石(五十石)、阿寒町双岳台(雄阿寒岳)の標本で描いている。

辻井ほか(2008)での分布記載は「北海道(東部)、サハリン、沿海州」で撮影地は根室市である。

林(2012)の標本採集産地は遠軽町六郷(遠軽)である。



図1 タライカヤナギ 2013.6.21 別海町

布を、国土地理院2.5万分の1地形図名で報告する。

文献産地

手持ちの文献から産地を拾い出してみた。()内は地形図名を示す。

横山(1951)では上士幌(上士幌)である。伊藤ほか(1994)での分布支庁名は十勝、

現地調査

1992年から2020年までの29年間で確認された産地は図2に●印で示す63箇所である。北から、浜頓別、乙忠部、音標、北見幌内、雄武、沢木、小向、登栄床、芭露、サロマ湖②、遠軽、羅臼、清里①、峰浜、上仁頃、端野、女満別、斜里②、留辺蘂西部、相内、北見、北見福住、武利岳、